

日本ウニコット協会 Newsletter

Vol.2 2020

目次

会長挨拶	1
2019 年度日本ウニコット協会 会計報告.....	2
ウニコット・フォーラム 2020「遊ぶことと言葉のあや」	3
協会からのお知らせ	4
協会共催オンライン研修会のお知らせ	6
編集後記	8

会長挨拶

コロナの時代における日本ウィニコット協会の活動

日本ウィニコット協会 会長 館 直彦

ウィニコットは大胆な、しばしば実験的な臨床実践を行ったことで知られています。そういう彼が、コロナの時代に生きていたらどうしただろうと考えてみました。彼は、積極的にラジオ放送に出演していましたし、『ピグル』などを読んでいます。患者の家族と電話でやり取りすることを厭わない人だったので、Webでのセミナーでも、診療でも、平気でこなしたのではないかと思います。だったら、Webを介しての分析も試みたでしょうか。想像が膨らみます。

彼が、原子爆弾の使用や、避妊法の発達のように、私たちの情緒発達に大きな影響を及ぼす出来事に、度々コメントをしていることはご存じのことと思います。コロナの時代に対して、彼はどのような発言をするのでしょうか。

さて、コロナウィルスが蔓延したために、不要不急の外出は避けることが謳われた結果、文化的・芸術的な活動の多くが自粛の対象となりましたが、学会活動も大きな影響を受けたのは、皆さんもご承知の通りです。その中で、日本ウィニコット協会も、どのような活動を行っていくか模索していますが、これまでのように大人数が集まって会合を開くことは当分の間、困難だろうとの判断のもと、Webを活用した活動を中心にしていくことになりました。もっとも私たちは、この方法に習熟しているわけではないので、手探りで最適な方法を見つけていくことになると思います。その一つの形が、今年のウィニコット・フォーラムの開催になります。現在、担当の理事の先生方のご尽力のもと、開催の方法について検討されています。

また、会員が一堂に集まることが出来るフォーラムが開催されないので、情報の伝達や共有はとても大事なことと思います。今後、日本ウィニコット協会では、ウィニコットに関連する著作、講演会、セミナー、研究会などの情報を会員に伝達していきたいと考えています。それらの多くは当分の間、Webを介してのものが中心となるとと思いますが、幸いなことに、当協会は小規模な団体なので、そういった作業は、わりと円滑に出来るのではないかと考えています。

来年の1月22日は、ちょうど彼の没後50年になります。当協会として、ウィニコットの没後50年を記念して、何か行事ができないかということも検討中です。

2019 年度日本ウィニコット協会 会計報告

当協会の会計報告として、2019 年度収支報告書を下記に掲載しています。

2020 年 3 月 16 日

会計報告書

年度： 2019年度

団体名：

日本ウィニコット協会

収入の部		
科目	金額	摘要
たちメンタルクリニックより借入れ	500,000	
ウィニコット・フォーラム収益	170,503	
合計	670,503	

支出の部		
科目	金額	摘要
口座開設（印鑑）費	10,924	
ホームページ制作費	316,049	
雑費	24,948	
合計	351,921	

差引収支	318,582 円
------	-----------

備考
※2020年度以降、借り入れ金500,000円を返済する必要があります。

ウニコット・フォーラム 2020

「遊ぶことと言葉のあや」

昨今の新型コロナウイルスの感染流行の状況を鑑みて、今年度はオンライン上での実施となります。詳細につきましては、随時 HP に掲載いたします。

記

日時：2020 年 11 月 29 日（日）

プログラム

シンポジウム「遊ぶことと言葉のあや」

シンポジスト：加茂 聡子（四谷こころのクリニック）

渡部 京太（広島市こども療育センター）

石田 拓也（たちメンタルクリニック）

指定討論：鈴木 智美（精神分析キャビネ）

基調講演 「心理療法は二人の遊びの重なりあうところ」

工藤 晋平（名古屋大学）

協会からのお知らせ

年会費納入のお願い

2020 年度（2020 年 4 月～2021 年 3 月）の日本ウィニコット協会の年会費の納入についてご案内いたします。納入会費は下記のとおりですので、8 月末までに下記口座に振込をお願いいたします。

記

○年会費：5,000 円

○納入方法：銀行振込（送金手数料は自己負担でお願いします）

振込先：りそな銀行上六支店

口座番号：普通口座 0370321

口座名義：日本ウィニコット協会

*必ずお名前をご明記ください。

*職場名義での振込み等される方は、ご一報くださるようお願いいたします。

ご不明な点がございましたら、協会事務局までご連絡ください。

協会からのお知らせ

研修会・協会共催事業のご案内について

日本ウィニコット協会では、ウィニコットおよび独立学派に関する研修会や、協会共催事業を会員の皆さま宛てにご案内させていただいています。

つきましては、会員の先生方が主催されている研修会などで、会員の皆さまにご案内したい内容がございましたら、協会事務局宛てにメール【jwasecretariat@gmail.com】にてご連絡ください。理事会にて審議の上、承認された場合、協会ホームページの「研修会情報」への掲載と、メーリングリストでの配信をさせていただきます。

なお、メールの件名を「研修会（協会共催事業）掲載希望」とし、本文に研修会の詳細をご記入ください。フライヤーの画像データや PDF などがあれば、そちらも添付していただければ掲載いたします。

協会共催オンライン研修会のお知らせ

日本ウィニコット協会では、会員の先生方を対象とした研修会の開催を支援しています。その一環として、来る2020年10月10日（土）に大阪対象関係論研究会主催、日本ウィニコット協会共催のオンライン・シンポジウムを開催いたします。皆様ふるってご参加ください。

オンライン・シンポジウム「精神病の対象関係論」

主催：大阪対象関係論研究会／共催：日本ウィニコット協会

大阪対象関係論研究会では、下記の要領でオンライン・シンポジウムを開催いたします。このオンライン・シンポジウムは、日本ウィニコット協会会員の方のみご参加が可能です。費用は無料です。オンライン上ではありますが、会員の皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

Freud は、シュレーバー症例をはじめとするいくつかの論考を通じて、精神病は自己愛に退行した状態であり、妄想は精神病患者の内的状態を外界に投影していると考えた。精神病患者は、自己に没入しているため、分析家との転移関係が形成されないとした。それゆえ、精神分析的な接近を断念せざるを得ないと論じている。

一方、クライン派の精神分析家たちによって発達早期のころが探究される中で、精神病についての理解が進んでいった。中でも、Rosenfeld は、精神病患者がよい対象を締め出す一方で、患者を脅かす対象は内面に保持され、マフィアのようなギャング団を形成し、脆い非精神病的な自己を支配するとした。そのため、言葉や正確な解釈によって葛藤状態にある自己の健康な部分に触れることの必要性を力説した。

クライン派では精神病を葛藤モデルでとらえるが、Winnicott は、精神病は幼少期の環境の失敗によって起こった破綻に対する恐怖への防衛であると述べている。そのため、欠損が生じた段階に戻って補う必要があるとし、「抱えること」の重要性を指摘した。Bollas は、精神病患者に特徴的な行動や防衛のあり方について考察している。Bollas によれば、患者は自身の絶滅の空想に対する防衛として、自己を断片化し、対象に投影するという。また、原初の身体感覚的な世界に退行し、対象とは情緒を伴う実際的な関係ではなく、感覚的なつながりであると指摘する。そこでの分析家の仕事は、精神病患者から投影された素材に対する抱える環境として機能することであり、語ることを通じて患者を主体的なポジションに引き込み、表象的機能を取り戻させ、自己を意識へと回復させることである。

本シンポジウムでは、Freud以降の対象関係論の分析家たちがどのように精神病について理解し、アプローチしていったかを紹介する。フロアを交えたディスカッションを通じて、精神病を再考したい。

記

日時：2020年10月10日（土） 15:00~18:15

参加資格：日本ウィニコット協会会員

参加費：無料

申込方法：電子メールにて件名を「オンライン・シンポジウム参加希望」とし、

① 氏名、② メールアドレスを本文に記載の上、

【objectrelations.osaka@gmail.com】にお送りください。

*参加可能な方に受諾のご連絡と当日の参加の仕方についてメールいたします。

ご不明な点がございましたら、大阪対象関係論研究会事務局までご連絡ください。

プログラム

15:00~15:05 タイムテーブルの確認

15:05~18:15 シンポジウム「**精神病の対象関係論**」

シンポジスト：作山 洋子（神戸市スクールカウンセラー）

館 直彦（たちメンタルクリニック）

石田 拓也（たちメンタルクリニック）

増尾 徳行（ひょうごこころの医療センター）

指定討論：川崎 俊法（たちメンタルクリニック）

企画・司会：奥田 久紗子（和こころのクリニック王寺）

平井 三喜（梶本こころのクリニック）

編集後記

会長挨拶の中で、館先生がウィニコットがコロナの時代に生きていたら、Web を活用していたのではないかと書いていました。私自身、Web を利用したセミナーなどに参加していますが、対面でのやりとりとは何かが違うと感じています。（肌感覚というか、身体を伴うようで伴わない感じでしょうか。）きっと、ウィニコットは、私（あるいは、私たち）が感じている何かが違う感じというのも、うまく使用してセッションに生かしていくのだろうと思います。今年度のウィニコット・フォーラムは、オンラインでの開催に変更となりました。もちろん、会場に集まって、その雰囲気を感じ取りながらディスカッションをするのとは勝手が違うとは思いますが、対面と Web の違いがどのように作用するか、それはまだわかりませんが、今回のオンラインでのフォーラムの開催は、創造的な試みの一つであると思います。対面だけでなく、Web という別の道具を用いながら、今後とも、当協会の活動を会員の先生方と共に盛り上げていけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。また、繰り返しにはなりますが、当協会では、ウィニコットおよび独立学派に関する研修会や、協会共催事業を会員の皆さま宛てにご案内させていただいていますので、そちらもご活用ください。なお、ニュースレターは、今後、年 3 回発行予定です。Vol.2 を発行するにあたり、ご協力いただいた全ての先生方に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

新型コロナウィルス感染症もそうですが、気候も落ち着かない状況ですので、体調を崩されないよう、どうぞご自愛くださいませ。

（奥田久紗子）

2020 年 7 月 18 日発行

日本ウィニコット協会 Newsletter vol.2

編集：石田 拓也

奥田 久紗子

発行：日本ウィニコット協会

日本ウィニコット協会事務局

e-mail： jwasecretariat@gmail.com

HP： <https://winnicottforum.com>

〒543-0001

大阪府大阪市天王寺区上本町 6 丁目 6-26 上六光陽ビル 601

たちメンタルクリニック・上本町心理臨床オフィス内
